

プログラムについての感想 笑いの効用

東葛クラブ 大須賀原子
ワークショップは、落語家立川志の春さんを講師に迎え、会員による日本語、英語のモデルスピーチ、フロアからの一寸笑える話の発表を受け、講師からのコメントと具体的なアドバイスに会場は笑いに包まれました。「ユーモアのある話し方のコツ」をグループごとで話し合い発表。志の春さんのアドバイスで印象深かった点は、話題には一寸不幸な話し、失敗談を使う。事実でも上手に脚色する。情景が浮かぶ工夫をするなどです。笑いは共感を生む源とガッテンしました。



I T Cに惚れなおす

盛岡クラブ 小泉千恵子
何年ぶりかのカウンスル会合参加でした。懐かしい方々にお会いして、むくむくと私の中のI T Cが頭をもたげて来ました。さて、プログラム開始。人を笑わせるのが得意でない私はプログラムタイトルに魅力を感じながらも、ちょっと引けていました。でも、気持ちよく人を笑わせてみたい！！プログラムが進むうちに、引けていたのが嘘のように、笑い転げながら笑いのツボを学びました。今日、体験し感じ学んだことを日々意識して過ごせば、なんだか自分も笑いの名人になれるかも・・・錯覚？・・・プログラムの構成やプログラムリーダーの誘導がすばらしく、そんな気持ちになれたのでしょうか。I T Cはやっぱり素晴らしい教育機関・・・参加出来たことに感謝！！

笑いは心への御馳走

東京セントラルクラブ 富山眞也
会場は文京シビックセンター26階にあるスカイホールで窓からの展望は良く、すぐ真下に東京ドームが見えた。定例のビジネスが終わると、あっという間に金屏風が置かれ高座のセティングが出来上がり、その手際良さに感服した。プログラムの司会者は今日の題目「笑ってガッテン」にふさわしくユーモアたっぷりの司会ぶり。講師の立川志の春氏が紹介され、ビッシと決まった着物姿が美しい。志の春さんに評価してもらう日本語と英語のスピーチがあり、すぐ的確な評価がなされた。笑いを誘うものは失敗談や言葉のすれ違い、など実際の例を挙げてなるほどと感心させられた。ガッテンだった。続いて会場からの何人かのスピーチがあり、それについて彼がちょっと言葉を入れると、見違えるように面白くなり、ここでもガッテンの連続だった。熟練のプロとはこういうものなのだ。笑いの良い勉強になった。私の所属の東京セントラルクラブの10月のインスピレーション…
Take time to laugh, it is the music of the soul, Take time to work, it is the price of success. The cheerful heart has a continual feast. 笑いは心を愉快で楽しくし、ずっと続けよう。笑いはご馳走だと実感したプログラムだった。



この人

今回の「この人」はサンデークラブの小菅あけみさんです。次期日本リージョン会長の彼女にITCに対する思いをお聞きしました。

By Saiki



サンデークラブ 小菅あけみさん

次期日本リージョン会長の意気込みはすでにあり

ITCとの出会い

アメリカ滞在中、教会で紹介されたミッショナリーが筑波クラブを設立。帰国して早速見学に行き、入会を決めました。

自分にとってITCとは

生活が忙しいと活動はできないと考えるのが普通ですが、ITCは忙しいときこそどうやってうまく切り抜けるか、答えを見つける場所だと思っています。

市の教育委員長をしたときには、議長の仕方、議事法とか、委員会のまとめかたが非常に役に立ちました。訪問校でのスピーチもITCのお陰で生徒の心に届くメッセージを伝えることができたと思います。本当にITCなくしては引き受けられなかったことでした。また柏市国際交流協会で、副会長としてボランティアをしています。ITCで学んだことを活かし、委員会活動をまとめていきます。ITCでは社会に還元できるものをたくさん学べます。

リージョン会長の使命

会長の仕事はリージョンの中だけでなく国際とのパイプ役です。

従来国際からの受信はしていましたが、これからはもっと日本から発信していきたいと思います。言葉の壁は大きな課題ですが、工夫していきたいです。例えば各カウンスルに英語クラブがあるようにして、国際との仲介役になってほしいです。リージョン会長がバイリンガルでない場合は、CLOと一緒に風通しの良いリージョンと国際の関係を保つべきです。

長期目標

海外のリージョンは日本のように80ものクラブは持っていません。(10~30クラブ位)。

これでは会長や役員の大責任になると同時に、一方ではリージョン役員になるチャンスも少なくなります。ITCのトレーニングのチャンスはできるだけ会員皆に開くべきです。そこでリージョンの分割の可能性を長期目標に掲げて検討したいです。今の状態ではクラブ分布の範囲が広すぎて、時間的、経済的にも問題があります。

よいITCメンバーとは

リーダーシップはもちろん、組織の一員としてチームワークができるかも大切だと思います。

そのためには心を開いてコミュニケーションをすること。まずは聞くこと。相手の言うことを聞いてから、相手の立場に立って発言する訓練が大切です。コミュニケーションは一方通行ではないことを学び、アーネスティンホワイト女史の言う「個と全体」のバランスが取れるメンバーになりたいです。

ロールモデルを捜せ

よい先輩やモデルを見て勉強になることがたくさんあります。国際役員の中には理想の人物がたくさんいて、ストレスになりそうな状況でありながら、冷静沈着な行動をしているのを見て勇気づけられます。最近、交流のチャンスは実際に会うだけでなく、メールでの意見交換もぞくぞくするほど楽しいです。

評価を恐れるな

ITCでの評価を自分のものにするか否かはその人次第です。耳触りの良い言葉よりは、自分にとって嫌なことを言われた方が、むしろ喜ぶぐらいの余裕があると必ず改善されていきます。成長するには苦い薬が必要です。

相手の話を聞きながら相手の心をとらえて自分の言いたいこともきちんと言えるような真のコミュニケーターになりたいです。そして自分が良かったと思えることを、一人でも多くの若い世代に伝えていきたいと願っています。将来、世界のコミュニケーションがより良くなるようにと祈りつつ、日々成長を目指しています。

小菅あけみ
日本リージョン次期会長

編集後記

ニュースレター作りをしてみて、皆さんの返信の速さに驚いています。

寺西会長の「目的は私たち自身がITCを楽しむこと」と、小菅あけみ日本リージョン次期会長の「評価を自分のものにするか否かはその人次第」の言葉が印象に残りました。

あまりに多くのことがあった2011年ももうすぐ終わろうとしています。来年が安心安全の日本の記念すべき年となりますよう御祈り致します。

Saiki

第 22 期
カウンスル No.8